

自分の考えや思いを英語で伝え合うことに喜びを感じる児童生徒の育成をめざして

越ヶ浜中の
英語の取組

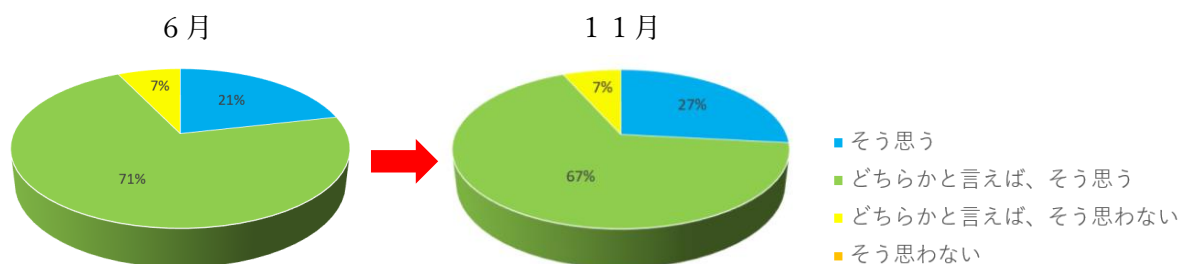
英語科のこれまでの取組をふり返って(成果検証)

11月15日(火)の公開授業が終わりました。当日、この日までの成果や取組を掲示しておりましたが、生徒を対象とした中間アンケートの結果を含め、改めてふり返ってみたいと思います。(写真は、11月15日の公開授業で、ふるさと越ヶ浜の魅力を英語で伝え合う生徒の様子)



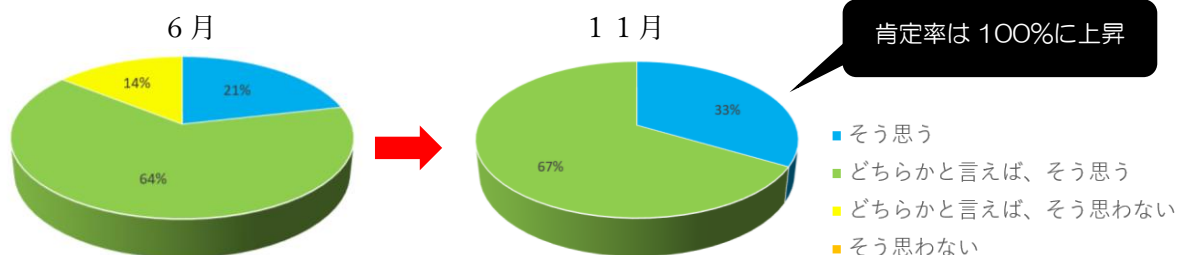
1 全校アンケート結果(6月と11月の比較)

Q. 英語で話すことは楽しい



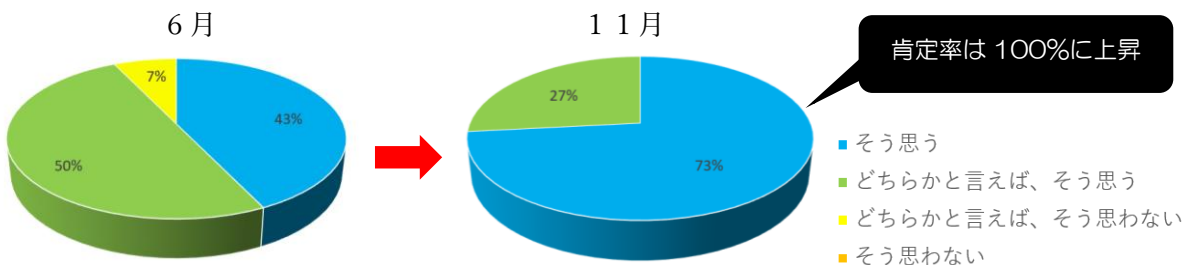
「英語で話すこと」に対して、「楽しい」という肯定的な意見が多く見られました。小中高連携英語教育推進校の指定を受け、小学校との学びの接続を生かした指導を展開してきたことにより、英語嫌いを少なくすることに成功しています。どの学年でも、生徒の主体性を大切にした取組を進めてきた成果と捉えています。

Q. 自分の思いや考えについて英語で書いて伝えたり、やりとりしたりすることは楽しい



このアンケート項目では、6月と比較して、肯定率が100%にアップしました。どの学年の生徒も同様の回答傾向があったことは大きな成果だと捉えています。単学年だけの取組ではなく、教員がチームとなって全学年で同じ取組を継続して進めることができたことも大きな要因と捉えています。

Q. 英語が分かったり通じたりすると楽しいと思う経験が多くあった



このアンケート項目でも、6月と比較して、肯定率が100%にアップしました。これは、英語科において特に重要とされている「言語活動」を徹底して行ってきた成果だと感じています。学年が上がるにつれて内容が難しくなり肯定率が下がる傾向が一般的ですが、小中高連携のスムーズな接続の視点から「話す」活動に特に力を入れてきたことや、単元末のめざす生徒の姿をイメージしながら授業計画・単元計画を立ててきた授業改善の成果と捉えています。

2 本校英語科の特色ある取組

特色ある取組1 オール・イングリッシュ・クラス（毎週金曜日）

Q.週1回のオール・イングリッシュ・クラスで、どんな力が高まったと思いますか。

- どうにかして伝えようとする力。（いろいろなことを試す）
- 英語だけで話すことで、英語で会話をしたりする力がつくと思う。
- 分からなくても言ってみる力がつく。
- 英語を聞く力。先生が英語で話していて、分からない表現もありますが、だいぶ聞き取れるようになったと思います。
- 自分で理解する力。
- 普通の授業より英語を話すことが多いから、たくさん英語が身につく、日常でも話せるようになると思います。
- 英語を頑張って使おうという気持ち。英語が理解できる力。
- 英語を理解する。話せなくても伝えようとする力。
- 相手が言ったことに対する反応や、話を広げる力。
- 何かしゃべろうとする力。
- 英語を話し続ける能力。
- 「どのように言ったら相手に伝わるか」と考えることができると思います。「簡単に言えるだろうか」と考える力がつくと思います。
- 自分が言いたいことをどうにかして伝えようとする力。
- 英語で話そうとする習慣が身につくため、普通の英語が話しやすくなる。すぐに英単語が浮かぶ。

金曜はALTの来校日となっていることもあり、授業での英語使用率100%を目指しています。生徒の実情に応じて日本語が必要なときには補足するなど、柔軟性をもたせるようにはしていますが、生徒の英語使用率を高めることにはこだわっています。生徒の感想も肯定的な意見が多く、この取組により、生徒の英語への挑戦意欲が高まったように感じられます。また、ALTからのフードバックや励ましのメッセージなどもホームページで発信しています。



特色ある取組2 異学年集団の交流をベースにした「全校モジュール英会話」

Q. 他学年の人と英語で話す活動や、他学年が書いた英語を読むことを通して、他学年の人から学ぶことはありましたか。

- 自分が知らなかったり、忘れていたりした文法や単語が分かる。
- 自分の知らない単語をたくさん書いてたくさん知る事ができたと思います。
- こんな言葉が使えるんだなと思った。
- 3年生のは、分からない単語もあるけど、なんとなく分かるようになった。表現の工夫などがしてあってすごいと思いました。
- いろんな語を学ぶことができる。知らないことや知らない語をときどき取り入れることができる。
- 1年生とは復習ができるし、3年生とは「こんなことを学ぶのか」と学べる。それに、みんなで学習することによって「頑張ろう」と思える。
- まだ知らない単語などを学んだり、どのときにどの言葉を使ったらいいかなどを学ぶことができた。
- 1年生と話したりすることで、普段使っている文法や単語の復習になっていると思う。
- もうこんなにしゃべるんだなと感じた。
- 感動しました。
- 発音いいなと思いました。また、自分なりに言いたいことを言っていたり、ミニノートを活用しながら言っていることが、すごくいいなと思いました。
- いろいろな言い方や文法を使っているんだなと思う。
- 3年生の範囲に1、2年生が近づいてきている。レベルが高い。話の伝え方や話の広げ方など。
- 積極的に自分から質問したりしているので、私も頑張りたいと思った。
- こんな英語が使えるんだなと思って、自分も頑張ってみようという気持ちになる。

学年を超えて学び合うことで、お互いに刺激になったり、英語学習のモチベーションの向上になったりしているようです。小規模校だからこそできる「よさ」でもありますが、今年度は全校体育や全校美術など、英語以外の教科においても異学年集団の交流をベースにした授業や活動が取り入れられており、生徒同士の日頃のよい人間関係を教職員全員でサポートしている結果ととらえています。（写真は、全校モジュール英会話の様子）



特色ある取組3 自分だけのフレーズ帳「ミニノート」の導入

Q.ミニノートが取り入れられたことで、どのような変化がありましたか。

- 忘れていた単語を思い出す。授業でしっかり使える。
- 授業でしたことを復習することができるから、使いやすいと思いました。
- 覚えておきたい単語をメモできる。
- 過去の忘れていた表現などを見直せて、頭に入る。
- 使える語が増えた。やりとりの中でいるんなことを聞いたりできる。やりとりが楽しくなった。
- 分からないことを後回しにせず、すぐに確認ができるようになったこと。
- 会話をする中で、いろいろな表現の単語などを使って話せるようになった。会話がしやすくなった。単語が少しずつ覚えられるようになった。
- 会話をするときとかに忘れていた表現をすぐ見られる。大きいのはじゃまになるけど、小さいから使いやすくて会話がしやすい。前まで使えなかった英語をいつの間にか覚えていた。
- ミニノートを見ながら繰り返し会話することで、文法などが覚えられること。
- すぐ調べてしゃべることができる。
- 日常会話に必要な熟語を言えるようになった。
- 1回出てきたことを「何となく書いたような」と思えるようになりました。
- 友達が言った言葉で良いなと思った文を自分も言うことができるようになった。
- 会話がスムーズになる。過去の会話をもとにできる。

どんな場面や状況でも使用できる「汎用性の高い表現」については、教師が示したり生徒が自分自身で書き足したりして、自分だけのミニノートを作っています。汎用性が高い表現を身につけると、会話に戦略を持たせることができ、話を広げやすくなります。生徒の感想からも、その効果を実感していることが分かります。また、全校モジュールを取り入れていることもあり、学年に縛られず、必要なフレーズは必要なときに与えるようにしており、1・2年生でも3年生で学ぶ表現を活用したりする姿も見られるようになってきました。



3 成果と今後の取組について

成果

- 生徒の英語学習に対するモチベーションが上がった。
- 英語を話すことへの抵抗感を持つ生徒が減った。
- 小学校との接続をより意識した指導ができるようになった。
- 大きな公開授業の役目をいただいたことで、担当英語教員のスキル向上など、人材育成につながった。
- 「Can-do リスト」の見直しや、教科でめざす生徒像を実際に単元計画に反映させることで、大きな授業改善につながった。上述した取組もあるが、それ以上に「言語活動」を大切にしていた日頃の授業改善に真摯に取り組んできた成果が、生徒の学びの姿勢の向上に確実につながった。公開授業では、国立教育政策研究所の清水調査官からも、日頃の取組の充実を評価していただいた。
- 総合的な学習の時間の「ふるさと学習」など、教科横断的な視点からも成果があった。特に3年生は、ふるさとの魅力を総合の時間にしっかり学び、郷土の魅力を英語で発信できるようになってきているなど、学習につながりが感じられる。今後は、開設したインスタグラムに、ふるさとの魅力を英語で発信する予定である。また、地域学校協働活動推進員の方にも学校の授業に参加するだけでなく、一連の取組を地域に広めていただくなど、大きく貢献していただいている。
- 今年度の日頃の取組をホームページに掲載することで、校内だけではなく、保護者や市内外の英語教員にも取組を発信し、成果を共有することができた。

今後の取組

- 「話す」活動に重点を置いてきたため、「書く」活動の比重を増やしていく必要がある。
- 他校とのオンラインによる英語授業など、少人数のデメリットを解消する方法については、ICT 機器の活用を促進する中で実践できることも多いため、検討していく。
- 協働的な学びを軸として授業改善を行っていくため、家庭学習においてはタブレット等を併用することで、生徒に充実した個別学習の機会を保障し、学力向上につなげていきたい。
- 今回英語科で実践したような「教科横断的な学び」を意図的に仕組んでいくことで、すべての教育活動及び教科で成果に結びつけたい。